

| | |
|-----------------|---|
| 研究課題名 | 咽喉頭食道癌に対する化学療法に伴う同時多発食道表在癌に対する治療効果の検証 |
| 研究期間 | 2025 年 11 月 12 日 ～ 2027 年 3 月 31 日 |
| 研究の対象 | 2013 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日の間に咽喉頭食道領域の進行癌に対して化学療法（化学放射線療法）を治療した際に食道表在癌が同時性多発し内視鏡的に経過観察可能であった方 |
| 研究の目的・方法 | <p>研究目的：咽喉頭食道領域は同時に腫瘍が多発することが多い。このため、臨床現場では同領域には進行癌と表在癌が同時に発生することがしばしば認められる。進行癌の治療は、化学療法や外科手術が行われることが多く、表在癌には内視鏡切除が行われることが多い。このような同時多発症例では進行癌に対する治療が優先されることが多く、進行癌に対する化学療法が表在癌に効果があることも期待される。しかし、進行癌の治療中に同時性の表在癌が増大する可能性も考えられる。このため本研究の目的は進行癌に対する化学療法が表在癌にどのような影響を与えるかを明らかにすることです。</p> <p>研究の方法：研究対象者の選択基準となる症例の咽喉頭食道領域の進行癌に対する化学療法施行前の食道表在癌の病変範囲と施行後の病変範囲を比較し、化学療法の影響によって食道表在癌の範囲がどのような変化しているか、内視鏡治療後に再発がないか検討します。さらに消失を含めて差があった症例と差がなかった症例でどのような薬剤で化学療法が施行されたか、臨床病理学的特徴について検討します。</p> |
| 研究に用いる試料・情報の種類 | <p>情報：年齢、性別、病歴、病理検査結果、内視鏡検査結果等</p> <p>試料：なし</p> <p>試料・情報の管理責任者：広島大学病院消化器内科 ト部祐司</p> |
| 利用または提供を開始する予定日 | 2025 年 11 月 12 日（実施許可日以降） |
| 個人情報の保護 | 得られた試料・情報から氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し、代わりに新しく研究用の番号を付けて取り扱います。個人と連結させるための対応表は、各機関の研究責任者が厳重に管理します。 |
| 外部への試料・情報の提供 | ・各施設からの情報提供はパスワードロックをかけたデータをメール送信によって行います。 |
| 研究組織 | <p>研究代表者（研究代表機関の研究責任者）</p> <p>広島大学病院消化器内科 診療准教授 ト部祐司</p> <p>本学の研究機関の長</p> <p>広島大学理事 田中純子</p> |

| | |
|-------------------------|--|
| | <p>共同研究機関</p> <p>がん・感染症センター 都立駒込病院 消化器内科 岡 靖紘 徳島赤十字病院 消化器内科 岸 和弘 大阪国際がんセンター 消化管内科 石原 立 東京科学大学病院 消化管外科 川田 研郎 市立奈良病院 消化器肝臓病センター・消化器内科 岸埜 高明 福岡大学筑紫病院消化器内科 小野 陽一郎 NHO 呉医療センター 内視鏡内科 吉田 成人 佐久医療センター 内視鏡内科 小山 恒男 鹿児島大学大学院 消化器センター 消化器内科 佐々木 文郷 長岡赤十字病院 消化器内科 竹内 学 東北医科薬科大学医学部病理診断学教室 教授 藤島 史喜 横浜市立市民病院 病理診断科部長 立石 陽子</p> |
| その他 | |
| 研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先 | <p>研究に試料・情報が用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象としませんので下記の連絡先までお申し出ください。なお、お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。</p> <p>また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。</p> <p>広島大学病院 消化器内科 担当者：操田智之 ト部祐司 〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3 電話番号：082-257-5193</p> |